



Hosoyaseiki Company guide.

TEL.053-589-5482

バイク(二輪車)・船外機等の加工・小物切削金属に関する  
製造・加工・試作のご相談なら浜松市の細谷精機株式会社へ



細谷精機株式会社

# 「単純形状」且つ 「汎用性部品」に特化

主要取扱製品：小物切削金属部品(全長100mm以下、外径φ25mm以下、内径φ21mm以下)  
主要取扱材料：丸棒材、鋼管材(鉄、ステンレス、アルミ、真鍮、リン青銅)



1,100点以上の  
多品種少量生産

ハイテク検査装置と  
管理システムによる  
「品質保証」

ローテク設備の  
「有効活用」と  
「技術継承」

常に「綺麗に、明るく、楽しく、  
笑顔」の会社を目指します



# 細谷精機の3つの「力」

We offer quality which satisfies our clients



## 細谷精機の技術力

ローテック加工設備を有効活用した、人の手による「匠」の技術。切削加工に欠かせない刃物を、細谷精機では人が研いだ刃物を使用しています。技術の伝承があってこそその大きな強みです。



## 細谷精機の品質力

ローテック加工設備の弱点を、ハイテク検査装置で補うハイブリッド体制を構築。ルールを明確にした集中管理を行う事で、良品保証を行い、社長自ら現場パトロールを行っています。

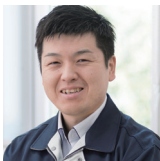


## 細谷精機の供給力

社長窓口によるスピード対応と1000点以上の多様な製品、それを管理する生産管理システム。当たり前の事ですが、突発的なご依頼を除き、お客様納期を100%遵守しております。

## 会社概要 Profile

社名 細谷精機株式会社  
 事業内容 輸送用機械器具製造業 ※棒材切削加工  
 創立 1953年4月(昭和28年4月)  
 所在地 〒434-0003 静岡県浜松市浜名区新原4406-1  
 TEL 053-589-5482  
 FAX 053-589-5483  
 E-mail info@hosoya-seiki.co.jp  
 代表者



代表取締役社長  
細谷 俊介

資本金 1,000万円  
 従業員 16名 ※2023年12月31日現在  
 平均年齢 47歳 ※2023年12月31日現在  
 主要取引先 ヤマハ発動機株式会社、ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社、ヤマハモーターエレクトロニクス株式会社、ヤマハモーターエンジニアリング株式会社、ヤマハ熊本プロダクツ株式会社、ヤマハモーター精密部品製造株式会社、ヤマハ株式会社、株式会社ヤマハミュージックマニュファクチャリング、株式会社荒井製作所、株式会社イハラ製作所、イワタボルト株式会社、株式会社エッチ・ケー・エス、株式会社河合光機、株式会社コーリツ、サクラ工業株式会社、静岡軽粗材株式会社、株式会社鈴木雄製作所、建ゴム工業株式会社、株式会社松野製作所、株式会社丸武部品、三豊工業株式会社、安福ゴム工業株式会社、株式会社ヤマザキ、山宗株式会社、やまと興業株式会社、株式会社ヤマト製作所、株式会社ユニバンス、株式会社山田、株式会社マルイチ、株式会社MARUHACHI 他

## 会社沿革 History

1953年(昭和28年)	細谷五郎により新津鉄工所として自動車関係の電装部品の加工を行う
1963年(昭和38年)	静岡県浜松市中区新津町へ本社工場を建設
1964年(昭和39年)	業績、規模の拡大に伴い、資本金100万円にて細谷精機株式会社を設立 代表取締役 細谷五郎 就任
1966年(昭和41年)	ヤマハ発動機株式会社様と取引開始 日本楽器製造株式会社(現ヤマハ株式会社)様と取引開始
1970年(昭和45年)	静岡県浜松市東区小池町に土地を取得
1971年(昭和46年)	小池工場を建設、稼働開始
1977年(昭和52年)	本社工場に部品倉庫、小池工場に食堂を建設
1978年(昭和53年)	資本金を400万円に増資
1981年(昭和56年)	小池工場を増設
1988年(昭和63年)	細谷五郎が細谷ブレイジング技研を設立
1992年(平成4年)	細谷ブレイジング技研を細谷精機株式会社へ吸収合併し細谷精機株式会社 高丘工場とした
1993年(平成5年)	代表取締役社長 細谷繁 就任
1995年(平成7年)	資本金を1,000万円に増資
2002年(平成14年)	ISO9001取得
2003年(平成15年)	ISO14001取得
2013年(平成25年)	高丘工場の閉鎖
2015年(平成27年)	本社工場、小池工場を閉鎖し、現在の静岡県浜松市浜北区新原へ工場を統合 代表取締役会長 細谷繁 就任 代表取締役社長 細谷俊介 就任
2015年(平成27年)	代表取締役会長 細谷繁 が取締役会長に就任
2016年(平成28年)	カラーピン検査装置(1号機)、カラープラグ検査装置(1号機)導入
2018年(平成30年)	両端加工自動機、画像寸法測定機、デジタルマイクロSCOPE導入
2019年(令和元年)	NC自動旋盤3台、ワンショット3D形状測定機導入
2020年(令和2年)	カラー検査装置(1号機)導入
2021年(令和3年)	NC自動旋盤1台、自動計数機導入
2022年(令和4年)	Oリング組付状態検査装置導入
2023年(令和5年)	NC自動旋盤3台、カラーピン検査装置(2号機) 画像外観検査付導入

